

水稲「タカナリ」の省力多収施肥技術

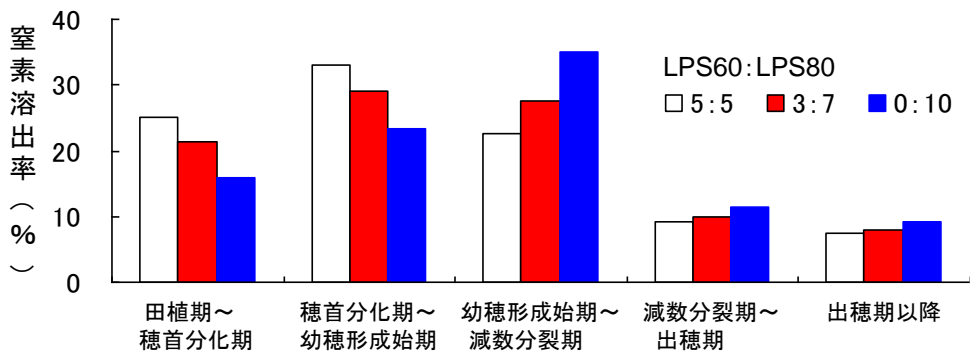
新規需要米栽培では、安価な玄米生産のために極多収が求められます。水稲「タカナリ」に、肥効調節型肥料のLPS80を窒素施用量12kg/10aとして基肥一発施用することで、籾数・登熟歩合を確保でき、省力的に極多収を得られます。

【肥効のポイント】

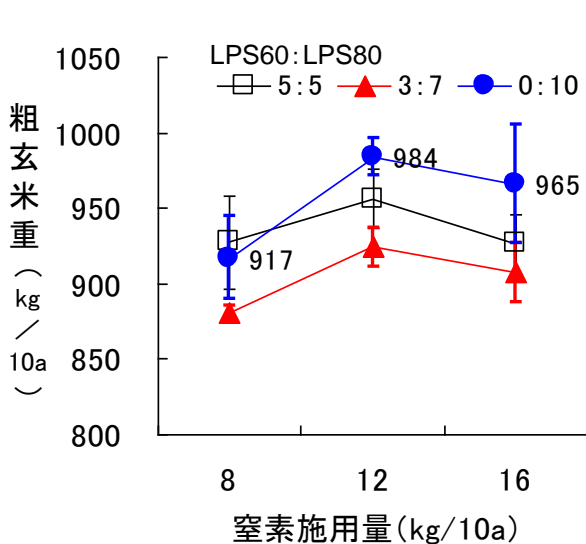
幼穂形成始期を中心とした
窒素溶出

★目指す水稲の生育

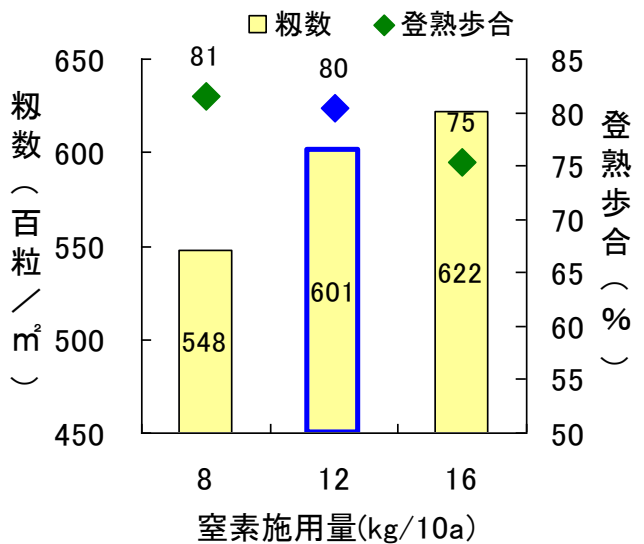
1. 籾数を多く
2. 登熟歩合を高く



★LPS60:LPS80=0:10で幼穂形成始期～減数分裂期の窒素溶出率が最も高い



★ LPS60:LPS80=0:10の
窒素施用量12kg/10aが最多収



★LPS60:LPS80=0:10, 窒素施用量
12kg/10aでは、籾数6万粒, 登熟歩合80%